

職場実態討論集会②

5月14日（土）13時半～ 県文化会館・聖賢堂

国労

蘇我運輸区分会ニュース

安全もサービスもほったらかし？

南船橋駅（高橋さん）

まず、駅社員が多数いるにも関わらず、改札窓口を閉めて、中で販促等に関する企画業務なるものが、社員の発案により行なわれている実態に改めて驚かされました。以前は勤務終了後に超勤対応だったものが、勤務時間内なら超勤も



払う必要がないからと会社も黙認？のようです。閉められた窓口の前では、困り果て右往左往している利用者が大勢いるのに、ほったらかしの実態に会場内も疑問視する声が多数ありました。

その企画業務とやらは自分たちが任されているはずの本来業務よりも大事なのでしょうか？理解に苦しみます。行き着く先は合理化人減らしであることは明白です。そんなことも気付かず、自分で自分の首を絞めているとは・・・。

また、委託駅での要員不足による管理駅からの遠隔操作の深刻な実

態も報告されました。

一人勤務の駅では、睡眠時間帯などは無人駅状態であるため、そこでのインターホン対応は全く別の場所からの管理駅社員の対応となります。が、音声だけのやり取りではお互いに伝わりづらく、特にお客様の方はイライラしてきて「そんな所にいないでこっちに出て来い」といった笑い話のようなエピソードも紹介されました。

西船橋保線（石井さん）

モニタリング車両など、今まで人がやっていた仕事も機械がやるようになったことの問題点などが報告されました。

仲間の報告を共有しよう！

機械化により、時間も人もいらなくなってきたが、チェックに関しては最終的には経験と勘がものを言い、まだまだ人には及ばないとのこと。実際、モニタリング車両でレールの傷や陥没も見つけられなかった例もありました。

機械化が進む中で一番危惧されることは、やはり技術継承の問題です。若い社員は、レールの破損等をPCの画像やデータの数値でしか判断できず、実物は見たことがないという実態に、素人でも大変不安な気持ちになります。

報告後のフリートークでは、電力の仲間から「駅からの要請で、構内の照明を撤去したが、本当に良いんだろうかと疑問に思った」旨の報告

があり、その担当の保線社員は危険な思いをしていることとしました。他の参加者からは「必要だから要求して設置させたものも多々ある。全然関係ない駅が自分には必要ないというだけでそれを撤去していくわけがない」という尤もな意見も出ました。この場合、少なくとも保線、電力、駅のそれぞれが連絡を取り合うシステムなどはなかったのでしょうか。余りにもお粗末なやり方です。人件費も含め、急速に進められている経費削減ですが、安全もサービスも切り捨てられている実態に改めて学びました。



☆ 次の執行委員会で今回の総括や、色々気付いた点をまとめてみようと思います。